

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（キッズ）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭、中学校教頭、小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日的課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探究)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、教育関連の情報を

積極的に収集すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET		13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健全な成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（中高）			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市立学校教員指導力改善指導員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事、神戸市公開異人館副館長			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みかの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 学校教育と公教育について
- 2 教育行政の仕組みについて
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 学校教育における法制度について
- 5 学校の組織と運営について
- 6 学校における教員の在り方について
- 7 学校経営と教師力
- 8 学校と地域の連携について
- 9 学校教育の評価について
- 10 変容する子どもの生活と教育的な課題
- 11 安全教育・安全管理の取り組み
- 12 保護者対応から連携について
- 13 災害時に学校が果たす役割について
- 14 学校における危機管理のあり方
- 15 開かれた学校づくりについて・まとめ

授業の方法

毎回配布したレジメを中心に授業を進める。
レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。
授業中に配布したレジメ等の資料を整理しておくこと

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

- 1 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
- 2 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
- 3 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
- 4 カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
- 5 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
- 6 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
- 7 カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
- 8 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
- 9 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
- 10 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
- 11 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
- 12 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
- 13 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
- 14 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制

の整備計画について学ぶ。

- 15 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲し板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任（育児や介護等）の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習Ⅰでは、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族研究の方法 1
- 3 家族研究の方法 2
- 4 研究テーマの設定
- 5 文献・資料の収集と整理
- 6 家族の研究論文を読む 1
- 7 家族の研究論文を読む 2
- 8 家族の研究論文を読む 3
- 9 家族の研究論文を読む 4
- 10 個人研究の発表 1
- 11 個人研究の発表 2
- 12 個人研究の発表 3
- 13 個人研究の発表 4
- 14 現代の家族問題
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント等、子ども（人）を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ケーススタディーその1 子ども
- 3 ケーススタディーその2 子ども
- 4 ケーススタディーその3 保護者等
- 5 ケーススタディーその4 保護者等
- 6 共有するテーマの絞り込みその1
- 7 共有するテーマの絞り込みその2
- 8 各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
- 9 各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
- 10 kj法によるテーマ分類1 小表札討議
- 11 kj法によるテーマ分類2 中表札討議
- 12 グループ発表準備1
- 13 グループ発表準備2
- 14 発表会
- 15 総括

授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもと入れ、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する

参考図書

必要に応じて紹介する

留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求めることがある。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士SV、臨床心理士			

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 各自の興味関心を聞き合う。
- 3 各自の興味関心の集団討議
- 4 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
- 5 研究計画・文献・資料に関する指導1
- 6 研究計画・文献・資料に関する指導2
- 7 研究計画・文献・資料に関する指導3
- 8 研究テーマの検討と討議1
- 9 研究テーマの検討と討議2
- 10 研究テーマの検討と討議3
- 11 各自の研究進捗報告会1
- 12 各自の研究進捗報告会2
- 13 各自の研究進捗報告会3
- 14 卒業研究に向けての質問会
- 15 まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立て、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

- 1 演習Ⅱの進め方について
- 2 質問紙法について
- 3 非構造的面接法について
- 4 概念抽出までの手続き
- 5 研究活動における倫理
- 6 実地研修①
- 7 実地研修②
- 8 実地研修のまとめ外3＞
- 9 ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
- 10 研究マップ発表
- 11 仮研究テーマでのプレ研究発表①
- 12 仮研究テーマでのプレ研究発表②
- 13 仮研究テーマでのプレ研究発表③
- 14 研究計画、研究方法の検討
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

授業計画

- 卒業研究テーマの確認
- 卒業研究の方法等の確認
- 卒業研究の執筆手順
- 卒業研究中間報告 1
- 卒業研究中間報告 2
- 卒業研究中間報告 3
- 卒業研究中間報告 4
- 卒業研究中間報告 5
- 卒業研究中間報告 6
- 卒業研究中間報告 7
- 卒業研究中間報告 8
- 卒業研究中間報告 9
- 卒業研究中間報告 10
- 今後の研究の進め方
- まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方との類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

- テーマについて
- 先行文献について知る
- 先行文献の感想を発表し合う 1
- 先行文献の感想を発表し合う 2
- 問題と目的を明らかにする
- 問題と目的について討議する 1
- 問題と目的について討議する 2
- 問題と目的について討議する 3
- 問題と目的について討議する 4
- 研究の方法を知る
- 個々の研究方法を討議する 1
- 個々の研究方法を討議する 2
- 個々の研究方法を討議する 3
- 個々の研究方法を討議する 4
- 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

自分のこだわり・気がかりを大切にテーマを決める。そのテーマによって研究を続けながら文章表現の力をつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

- 卒業研究の概略説明
- 卒業研究の計画、作成の確認
- 卒業研究の報告と討議 1
- 卒業研究の報告と討議 2
- 卒業研究の報告と討議 3
- 卒業研究の報告と討議 4
- 卒業研究の報告と討議 5
- 卒業研究の報告と討議 6
- 卒業研究の報告と討議 7
- 卒業研究の報告と討議 8
- 卒業研究の報告と討議 9
- 論文推敲 1
- 論文推敲 2
- 最終報告と討議
- まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

参考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力する。そして、自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

- 分析結果報告・仮説の検証①
- 分析結果報告・仮説の検証②
- 分析結果と考察①
- 分析結果と考察②
- 分析結果と考察③
- 分析結果と考察④
- 分析結果と考察⑤
- 研究のまとめと総合考察①
- 研究のまとめと総合考察②
- 今後の課題について
- 分析結果一覧表の作成
- 卒業研究の校正①
- 卒業研究の校正②
- 最終発表と調整
- まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にわたる初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握すること 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握すること 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら

ら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回は前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤真子編 『人間関係の発達心理学2 乳幼児期の人間関係』培風館

川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』福村出版 2010

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

- 1 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
- 2 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
- 3 保育内容の歴史の変遷
- 4 子どもの発達の特徴
- 5 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 6 養護と教育、乳児保育、長時間保育
- 7 保育内容 5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 8 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
- 9 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
- 10 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
- 11 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
- 12 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
- 13 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
- 14 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
- 15 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワーク

やグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業内で小テスト等を5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

幼稚園教育指導資料「幼児理解に基づいた評価」(チャイルド社)「ようちえん あしたのもいきたいな」(全国公立幼稚園長会)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC		17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの理解と援助			17412	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅田 裕子	選択	1				

授業の到達目標

保育実践において、子ども一人一人の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもが、生活や遊びの中で、何を経験し学んでいくのか、子どもを理解するための基本的な考え方を学ぶ。
合わせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶと共に保育における発達援助の基本について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

子どもの発達と学びをとらえ、子どもを理解する際に必要となる様々な視点や方法について、具体的な事例や演習を通して学び、考察する。また特別な配慮を要する子どもへの援助や保幼小の接続、保護者支援など、子どもをめぐる課題についても理解を深めるようにする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの発達と保育実践① 子ども理解における発達の把握
- 3 子どもの発達と保育実践② 保育者のかかわりと子どもの発達
- 4 生活や遊びを通した学びの過程① 子どもの生活と学び
- 5 生活や遊びを通した学びの過程② 子供の遊びと学び
- 6 保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 7 保育における発達援助② 特別な配慮を要する子どもへの理解と援助
- 8 まとめ 現代社会における子どもの発達と保育の課題

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。またグループ討議や意見発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考図書

保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
子ども理解と保育実践（萌文書林）

教員連絡先

asada@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 4	①/②	17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて合奏譜を各自で作成することにより、楽典・読譜の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画

- 1 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
- 2 わらべうたと子どもの歌など歌唱教材研究と演習。
- 3 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 4 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 5 打楽器の奏法とリズム合奏。
- 6 合奏演奏と編曲法。
- 7 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 8 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 9 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 10 歌唱指導の実践。
- 11 歌唱指導の実践。
- 12 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 13 ささまざまな表現活動とそのまとめ。
- 14 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 15 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% レポート提出も求める。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健全な成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

- 1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
- 2 保育士・教師としてできる個別配慮
- 3 介助者が加わったときの役割
- 4 室内トラブルへの対応その1 解決のポイント
- 5 室内トラブルへの対応その2 立ち歩きやエスケープ
- 6 室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル
- 7 室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処
- 8 保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方
- 9 保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方
- 10 周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子ども
- 11 周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して
- 12 チーム支援その1 確かな情報を共有する
- 13 チーム支援その2 実態の把握方法
- 14 チーム支援その3 組織的支援の進め方
- 15 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グルーブトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童養護施設・児童心理治療施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
- ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
- ・虐待についての基本的知識を身につける。
- ・このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、まずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後に福祉心理学的心理支援の実践について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援、さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

- 1 第1章 社会福祉の展開と心理支援
- 2 第2章 総論：生活を支える心理支援
- 3 第3章 暴力被害者への心理支援
- 4 第4章 高齢者への心理支援
- 5 第5章 障害・疾病のある人への心理支援
- 6 第6章 生活困窮・貧困者への心理支援
- 7 第7章 児童虐待への心理支援の実践
- 8 第8章 子どもと親への心理支援の実践
- 9 第9章 認知症高齢者の心理支援の実践
- 10 第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- 11 第11章 精神障害者への心理支援の実践
- 12 第12章 家族・職員への心理支援の実践
- 13 第13章 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
- 14 第14章 多職種協働実践事例報告
- 15 福祉心理学のまとめ

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島一彦・繁樹算男 監修 中島健一 編 2018 公認心理師の基礎と実践⑩ 福祉心理学 遠見書房

留意事項

講義は基本的にテキストの各章の内容に沿って行う。テキストを購入すること。

教員連絡先

niimi@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務、指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。

KaiseiパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

- 1 教育課程改定の経緯と基本原則
- 2 教育課程の基準
- 3 学習指導要領の改訂の変遷
- 4 特色ある教育の推進とカリキュラム・マネジメント
- 5 教育課程の編成
- 6 教育課程の授業改善
- 7 教育課程の改善と学校評価（教育課程におけるPDCA）
- 8 児童の発達支援（発達支援と個に応じた指導の充実）
- 9 道德教育推進上の配慮事項（豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携）
- 10 総合的な学習の時間の歴史と目標
- 11 総合的な学習の時間の指導計画
- 12 総合的な学習の時間の単元計画
- 13 総合的な学習の時間の実践と評価
- 14 総合的な学習の時間の指導の具体的事例に学ぶ
- 15 教育課程論と総合的な学習の時間の指導法の振り返り・定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現

場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。

評価方法：平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江／濱田 誠二郎	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
- 3 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
- 4 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
- 5 保育計画案・学級経営案の作成
- 6 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
- 7 学校園現場の見学・調査①
- 8 学校園現場の見学・調査②
- 9 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
- 10 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
- 11 模擬保育・模擬授業と討議①
- 12 模擬保育・模擬授業と討議②
- 13 事例研究とロールプレイング①
- 14 事例研究とロールプレイング②
- 15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

①レポートや作品等の提出物については、担当教員が指導助言を行う。

②評価方法は平常点70％、定期試験30％とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	1	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5 児童や教職員との接し方
- 6 実習記録の書き方
- 7 学習指導と生徒指導
- 8 算数科模擬授業（低学年）
- 9 算数科模擬授業（高学年）
- 10 教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能と保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認（実習事後の御礼状の書き方なども含む）
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。遅刻は3点減点とする。

テキスト

「施設実習 パーフェクトガイド」 わかば社
「【改訂2版】これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉」わかば社

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかりと把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。